

# Adobe InDesign クロスメディアの概要

ほとんどのコンテンツにおいて、最も労力を必要とするのはページレイアウトです。しかし、長い時間を費やして印刷ページのデザインやフォーマットを行ったとしても、ページレイアウトファイルを Web ページレイアウトプログラムで直接開くことができないなど、作成したコンテンツは基本的にファイル形式の互換性が低く、そのままでは異なるメディアにコンバートして利用することができません。コンテンツを別のメディアで利用するには、中間ファイル形式として書き出すか、アプリケーション間でコピー&ペーストを行う必要があります。

ただし、印刷用ファイルから Web レイアウトプログラムにペーストされたテキストには、改行やサポートされていない拡張文字などの不要なフォーマット情報が含まれている場合があります。そこで、Web レイアウトプログラムで編集を始める前に、これらを修正しておく必要があります。また、画像についても、Web 上で表示するための再加工、ダウンサンプリング、最適化が必要になります。

結果的に、コンテンツの修正は非効率的で直線的なワークフローの原因となります。実際、コンテンツは共有されず、いくつかのアプリケーションで順番に作業していくこととなります。コンテンツに付随しているフォーマットや他の情報は、いったん削除するか修正してから、メディア固有のフォーマットを適用しなければなりません。

しかし、出版および Web オーサリングのワークフローの早い段階から、確実かつ効果的にコンテンツを共有できるとしたらどうでしょうか。出版およびオンラインメディアの両方へコンテンツを配信するために、1つのソースファイルを使用して、アプリケーション間でよりスムーズに作業ができればどうでしょうか。また、よりクリエイティブで、より生産的な作業に時間を使えるようになったらどうでしょうか。

## XML によるフレキシブルなコンテンツの作成

Web の分野では、XML (eXtensible Markup Language) という言葉を聞いたことがあることでしょう。出版デザイナーやプロダクションアーティストにとって、XML の使用には何かの利点があるのでしょうか。

### XML とは

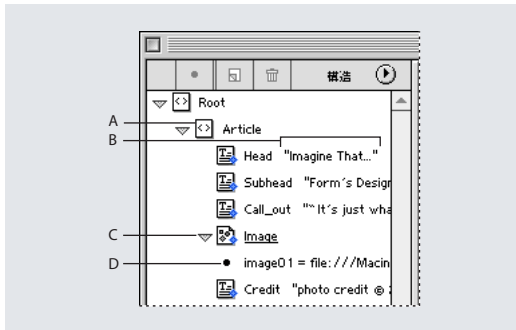
XML はドキュメント内のテキストにタグを付ける手法であり、異なるコンピュータアプリケーション間でもコンポーネントを識別して再利用できるようになります。タグを使用して情報にラベルを付け、その構造を制御します。例えば、テキストフロー内のあるテキストが見出し要素であることを示すには、"`<headline> Wonderfully Different </headline>`" などの形式で、その内容を表すタグを使用してラベルを付けます。

仕様の定められたタグセットで構成され、Web のフォーマット情報のみを表す HTML とは違い、XML ではタグを大幅に拡張することができます。コンピュータシステム間で情報を相互に交換できるようにするために、業界固有のタグや用語を定義できます。例えば、NITF (News Industry Text Format) と NewsML (News Markup Language) は、競合する新聞・通信社がニュース記事を共有することを可能にしました。

さらに、XML は World Wide Web Consortium (W3C) によって開発された、オープンな標準規格です。これは、XML が独占的なものではなく、オーサリングツール、コンテンツ表示エンジン、変換ツール、データベースアプリケーションなどの広範囲なアプリケーションで使用できることを意味します。

## 構造化されたコンテンツについて

コンテンツの内容を記述することに加えて、XML は情報の構造を指定するためにも使用できます。構造とは、ドキュメント内のタグ付きアイテムの順序と階層関係のことです。セクションとサブセクションで構成されるアウトラインと同じように、アイテムをグループ化する構造によって、各アイテムがどのように関連しているかを指定できます。例えば、ストーリーにラベルを付けることによって、ある画像をメインストーリーに取り込み、別の画像をサイドバーに取り込み、両方の画像にフォトクレジットを適用することが可能です。構造化されたコンテンツでは、アプリケーションによる制御、カスタマイズ、個人設定が簡単に行えます。



A. 要素名。B. テキストの一部。C. 要素を表示したり非表示にするには、三角形をクリックします。D. 属性。

## XML のブロックの作成

XML は、構造化コンポーネントと構文から構成されています。

**タグ** タグは、ドキュメント内のページアイテム（テキストおよびグラフィック）のラベルです。タグは、「タイトル」や「サイドバー」といったアイテムの役割や、他のアイテムとの関係を示します。InDesign では、タグパレットにタグが表示されます。XML タグは拡張可能で、あらかじめ定義されていません。タグのセットは、ユーザがカスタマイズできます。

**要素** Adobe® InDesign® では、ページアイテムにタグを付けたときに構造表示ウィンドウに表示される XML タグのことを、要素といいます。子要素は、構造内で親要素の下位に置かれます。兄弟要素は、同じ階層レベルに表示されます。InDesign では、要素は構造表示ウィンドウに表示されます。

**属性** XML 言語で解釈されるタグまたは構文を使用した要素について、説明する文字列です。属性には、作成日や作成者など、要素の内容に関する情報を提供する名前や値が含まれています。

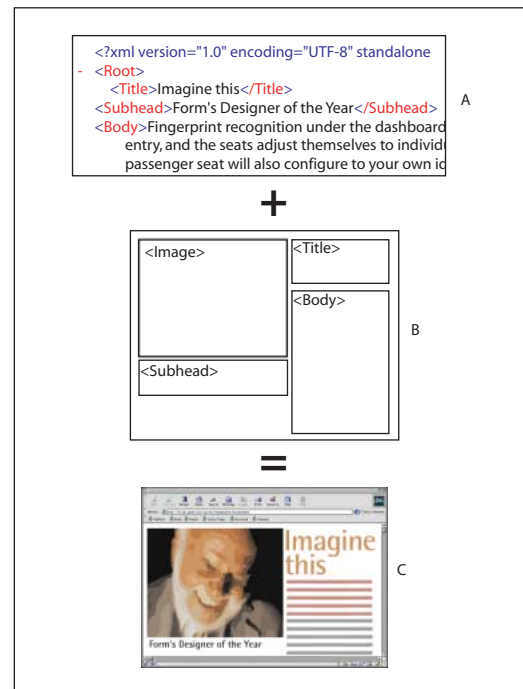
例えば、InDesign に配置したグラフィックにタグを付けた場合、属性はグラフィックファイルの位置を示します。属性は、構造表示ウィンドウ内では、属性は要素の下に表示されます。InDesign では、属性の名前と値を入力するためのダイアログボックスがあります。

## XML の機能について

XML を使用することにより、さまざまな方法で生産性を向上できます。

**フレキシブルなコンテンツの相互利用** XML では、出版や Web など、特定のメディアに対して適用されるフォーマットは、コンテンツと分離して保持されます。フォーマットと分離されることによってコンテンツの柔軟性が高くなり、アプリケーションとフォーマット間でのコンテンツの相互利用性がより高くなります。

**フレキシブルなフォーマット** Web 上に表示されるコンテンツをスタイルシートによって動的にフォーマットするのと同じようにして、XML タグは、出版、Web、PDA などのメディアに応じて、コンテンツをフォーマットするスタイル情報と結び付けることができます。



A. XML ソースファイル。B. テンプレートとスタイルシート。C. Web ページ。

Adobe InDesign 2.0J、Adobe GoLive® および Adobe FrameMaker® 6.0 など XML 対応のレイアウトおよびパブリッシングツールを導入すると、コンテンツのさまざまなメディアへの再利用がより簡単にできるようになります。配布する XML コンテンツの表示やフォーマットを自動的に決定するのに必要なメディア固有のフォーマットを行うには、レイアウトおよびパブリッシングアプリケーションを使用します。

**アセットの共有** 出版および Web オーサリングプロセスの初期段階からコンテンツを共有することによって、クロスメディアワークフローを効率よく行うことができます。XML ファイルを単一のコンテンツソースとして使用すると、1 つのソース (XML ファイル) を変更するだけで、出版用と Web 用の両方のレイアウトを同時に更新することができます。この効率的なワークフローによって、デザイナーや制作スタッフは、単一のメディアに対するコンテンツの更新や修正をより短期間で行えるようになり、クリエイティブな作業により多く時間をかけられるようになります。

**外部のコンピュータ処理** XML タグにはフォーマット情報が含まれないため、コンテンツに対してインテリジェントな操作をコンピュータで簡単に実行できます。プログラムまたはスクリプトによって、各パブリッシングメディアに固有の要求を満たすための、コンテンツの再編成、変換、再利用、フォーマットを行うことができます。

仮に、月刊ッキング雑誌のコレクションから、部分的にレシピを集めた 1 年分のレシピ年鑑をその年の最後に出版するとします。この年鑑は、本として出版するだけでなく、今後 3 年間の購読契約を更新した読者への「プレミア」のオンラインドキュメントとしても配信します。この場合、XML パーサをクエリと一緒に利用すれば、レシピを 1 つのパブリケーションに収集、編成して、再フォーマットすることができます。古い印刷レイアウトファイルを綿密にチェックしてレシピコンテンツを探し出し、新しいレイアウトにコピーして貼り付け、さらに再フォーマットしていた従来のワークフローと、自動化されたワークフローを比べてみてください。

自動化されたワークフローでは、時間のかかる手動作業が省略され、よりクリエイティブな作業に集中できます。また、XML ベースのワークフローによって、より効率的にコンテンツを管理できるようになり、生産性も向上します。それでは次に、XML を利用して生産性を高める方法について説明します。

## InDesign の XML

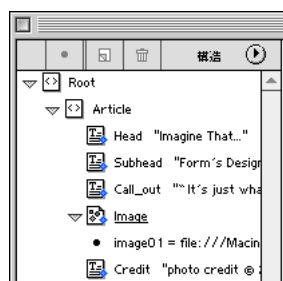
Adobe InDesign は、XML をネイティブサポートしているページレイアウトアプリケーションです。既に親しんでいるツール、プロセス、メタファーに新たな機能をいくつか追加して、XML の作成、管理、配信を行います。

**タグパレット** InDesign のタグパレットを使用すると、コンテンツのラベル付けに使用するタグの名前を作成および管理できます。また、ドキュメントで使用する新しいタグを作成することもできます。タグは、既存の XML ファイルまたは他の InDesign ドキュメントからタグパレットへの読み込みが可能です。この機能を利用すれば、新旧のドキュメントを構造化するために使用するタグ名を確実に統一できます。



タグパレットには、使用可能なすべてのタグのリストが表示されます。

**構造表示ウィンドウ** 構造表示ウィンドウは、InDesign ドキュメントを別の視点から見た表示を提供します。この表示は、タグ付きコンテンツの構造または階層関係を表します。例えば、雑誌記事のすべての要素 (タイトル、小見出し、本文、図、キャプション、表など) を含むスプレッドがあるとします。この要素がすべて構造化されている場合、構造表示を使用すると、各要素がページ上でどのようにフォーマットまたは使用されているかではなく、各要素の内部的な関連を見ることができます。



構造表示はタグ付きコンテンツの階層関係を表示します。

この階層は、参照して確認できるだけでなく、要素を構造表示の異なる位置にドラッグして階層の配置を変えることもできます。階層の変更は、レイアウト内のフレームの位置には影響しません。ただし、階層内の変更によってフレーム内のテキストの順序が変わり、書き込まれる XML ファイルの構造に影響する場合があります。

さらに、構造表示では、要素がページ上に配置されているかいないかがすぐに分かるように表示されます（構造表示アイコンの青い点は要素が配置されていることを示します）。構造表示では、ドキュメント内で何がどこに配置されているかを知るのに役立つように、各要素の最初のテキストが一部だけ表示されます。また、構造表示を使用すると、各 XML コンテンツと一緒に読み込まれた属性を表示したり、隠したり、参照したりすることができます。例えば、すべてのグラフィックには、ファイルの場所を指定する属性が含まれています。XML コンテンツに属性を追加するのも簡単です。

読み込んだ XML ドキュメントは、構造表示ウィンドウに自動的に表示され、関連する XML タグがタグパレットに表示されます。

構造表示およびタグパレットにより、親しみやすくデザインしやすい XML ファイルの作業方法が InDesign に導入されます。これによって、デザイナーは、ページをデザインするために必要となるフレキシブルな操作性を失うことなく、構造化されたコンテンツの利点を活用することができます。

### InDesign でのコンテンツへのタグ付け

XML を作成するには、コンテンツにタグ、つまりラベルを付けます。タグパレットでの作成、他の InDesign ドキュメントからの読み込み、既存の XML ファイルからの読み込みのいずれかの方法でタグを設定すると、ページレイアウト画面でコンテンツにタグを付けることができるようになります。QuarkXPress® または Adobe PageMaker® など、他のレイアウトアプリケーションから読み込まれたコンテンツは、InDesign のファイルフォーマットへ変換してからコンテンツにタグを付けます。

時間をかけて作成した既存のデザインを活用して、InDesign で簡単に XML を作成できます。例えば、コンテンツのフォーマットに段落スタイルを使用している場合、InDesign では段落スタイルに対応する XML タグへ自動的にマップすることができます。

InDesign には、コンテンツにタグを付ける方法がさらに 3 つあります。

- タグパレットからテキストフレームまたはグラフィックフレームへ、タグをドラッグ&ドロップします。
- テキストフレームかグラフィックフレームを選択またはダイレクト選択してから、タグパレット内の対応するタグ名をクリックします。
- テキストフレームかグラフィックフレームを選択またはダイレクト選択してから、構造表示ウィンドウへフレームをドラッグして、表示されるメニューからタグ名を選択します。

コンテンツにタグを付けた後は、構造表示を使用して、作成している構造を確認したり、要素の階層を必要に応じて再配置できます。

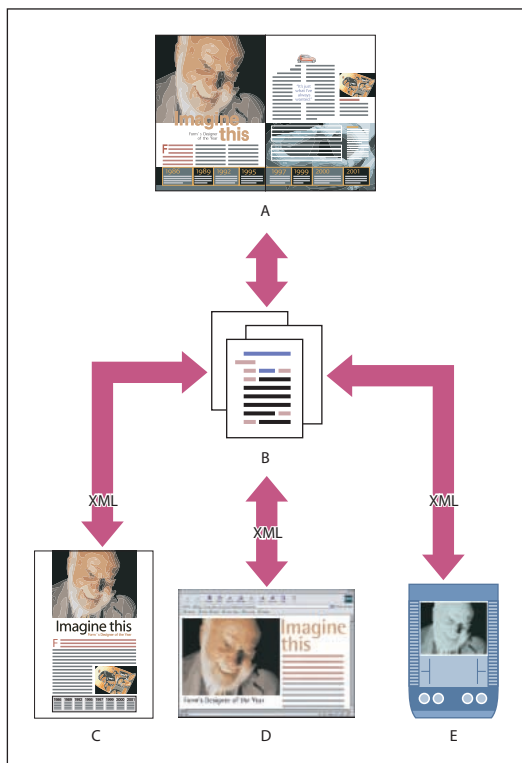
### InDesign からの XML の書き出し

すべてのコンテンツにタグを付けてドキュメントの構造をアレンジしたら、XML ファイルを書き出すことができます。InDesign での XML 作業についての詳細は、

<http://www.adobe.co.jp/products/indesign/> をご覧ください。

## XML のパブリッシング

ここまでの操作によって、InDesign ドキュメント内で、コンテンツから構造とフォーマット情報を分離することができました。次に、XML ファイルを出版および Web パブリッシングでどのように使用するかに説明します。



A. InDesign レイアウト。B.XML ファイル。C. 別の InDesign レイアウト。  
D. Web ページ。E. ハンドヘルドデバイス。

XML は、さまざまな分野において、パブリケーションのコンテンツを作成する多様な XML 対応ソフトウェアツールと組み合わせて使用することができます。例えば、Adobe GoLive は、データソースとして XML ファイルを認識し、事前に作成したテンプレートに XML ファイルの要素を組み合わせて、デザインされた Web ページを動的に生成することができます。また、InDesign に XML コンテンツを直接読み込むことによって、出版用パブリケーションのコンテンツソースとして XML を使用することもできます。

## InDesign ドキュメントへの XML の読み込み

InDesign の XML 読み込み機能は、フレキシブルで高度な対話を備えています。実際、XML ファイルを使ったデザイン作業は、テキストファイルやグラフィックファイルを使ったデザイン作業と同じほど簡単です。ファイル / XML の読み込みコマンドを使用して XML ファイルを InDesign ドキュメントに読み込み、ページ上に要素をドラッグ&ドロップしてレイアウトを作成するだけです。XML ファイルを読み込む時には、既存の XML コンテンツを追加するか、置き換えるかを選択できます。あるいは、新規または既存のドキュメントに構造を追加するために、XML ファイルからタグのみを読み込むこともできます。

XML ではフォーマットとコンテンツが分離されているため、読み込まれた XML ファイルにはテキストのフォーマット情報は含まれません。ページ上でドラッグ&ドロップすると、要素にデフォルトのテキストとグラフィック特性が使用されるのはこのためです。ただし、ページのレイアウトを始める前に、あらかじめ指定してある段落スタイルに XML タグをマップすれば、テキスト要素に簡単にスタイルを設定できます（逆に、段落スタイルを XML タグにマップすれば、スタイルを設定されたドキュメントにすぐに構造を追加できます）。さらに、グラフィックを読み込むときには、クロープ情報、パス、マスク、その他の調整などは保持されませんが、画像を含む InDesign のグラフィックフレームは簡単に調整できるため、思いどおりの結果を得ることができます。

## InDesign 上での構造化テンプレートの使用による XML の公開

InDesign 2.0J の XML 機能は、前のセクションで説明したインタラクティブなドラッグ&ドロップによるデザインアプローチだけでなく、より実務志向でテンプレートベースのワークフローもサポートします。テンプレートベースのワークフローの目的は、XML コンテンツを使用してできるだけスムーズに多くの美しいレイアウトのページを作り出すことです。重要なポイントは、タグ名の設定と適用およびドキュメントの構造化を正確に行い、それが InDesign テンプレートで使用されるタグ名および値と一致するようにすることです。さらに、段落スタイルを XML タグにマップできるため、InDesign は読み込み時に XML ファイルを自動的にスタイル設定ができます。

構造化されたテンプレートベースのデザインアプローチでは、どのように XML コンテンツが処理されるのでしょうか。最初のステップで、NITF (Newspaper Industry Text Format) などの業界標準フォーマットを基にするか、自分のワークグループ用のフォーマットを考案するなどして、共通のタグ付け構造を決定します。この構造は XML ファイルか InDesign ファイルに保存され、いつでも InDesign に読み込むことができます。

InDesign 上でテキストとグラフィックのプレースホルダをレイアウトし、タグパレットからプレースホルダのフレームにタグを適用します。これにより、洗練された構造化テンプレートが作成されます。同じタグ名を持つ XML ファイルをテンプレートに読み込むと、InDesign はタグを認識し、タグ名に対応するフレームに XML コンテンツを自動的に流し込みます。また、段落スタイルにあらかじめタグがマップされている場合、InDesign はテキストを自動的にフォーマットしてから流し込みます。

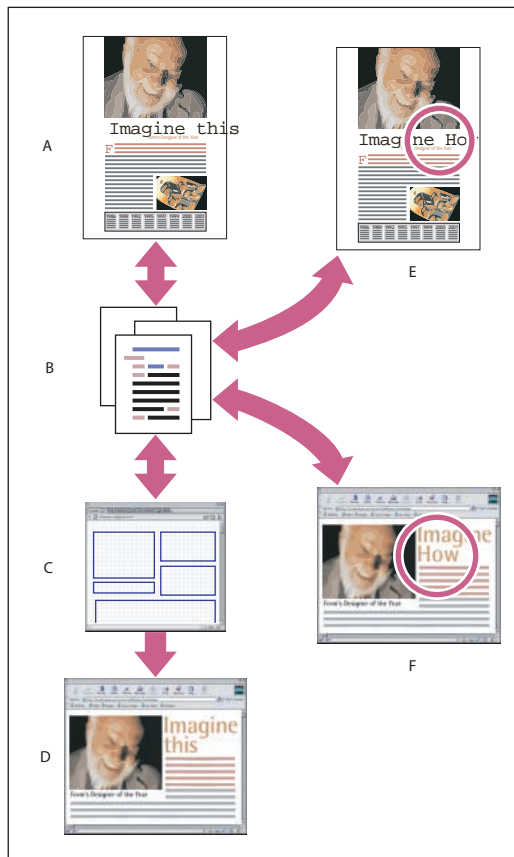
新聞、雑誌、その他のスピードが要求される制作環境では、出版や他のメディアに対してもコンテンツ作成を効率化できる XML 機能は非常に有利です。さらに、InDesign の XML 機能は、オープンスタンダードに基づいており、InDesign の他の機能と同様に高い拡張性を持ちます。これにより、InDesign を XML ベースのパブリッシングシステムへ簡単に統合することができ、生産性を最大限に高められます。

InDesign での XML 作業についての詳細は、  
<http://www.adobe.co.jp/products/indesign/> をご覧ください。

### Adobe GoLive の使用による Web への XML の公開

InDesign で構造化されたテンプレートを作成するプロセスと同様に、Adobe GoLive のダイナミックコンテンツ機能を使用して、スマートなテンプレートを作成することができます。フレームを XML ファイルのタグ名にリンクすれば、コンテンツが自動的に流し込まれます。フレームにはスタイル情報が関連付けられていて、動的に HTML Web ページが作成されます。GoLive のダイナミックコンテンツ機能を、一連の XML ファイルや、ASP または JSP テクノロジ

(Web ページを動的に作成およびカスタマイズするサーバサイドテクノロジー) と結び付けて利用すれば、Web ページを即時に構築して提供できるようになります。



A. InDesign レイアウト。B.XML ファイル。C.GoLive テンプレート。  
 D.Web ページ。E. 別の InDesign レイアウト。F. 動的 Web ページ。

XML コンテンツを Web に公開するための GoLive の使用の詳細については、GoLive のドキュメントを参照してください。